

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

| | |
|---------------|---|
| 1 実践テーマ | 【I, III, IV】 |
| 2 実施対象者 | 登米市立佐沼小学校 全校児童（男子365名、女子320名、計685名） 3学年（男子45名、女子65名、計110名） 5学年（男子66名、女子57名、計111名） |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間、外国語活動 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ） |
| 4 目標 (ねらい) | <ul style="list-style-type: none"> ・障がいについて調べたり、体験したりして大変さや支援の仕方を学ぶことをとおして、共生社会について考える素地を養う。 ・パラリンピックの意義や内容について理解させる。 ・外国語での活動をとおして、外国の方とのコミュニケーションの取り方や外国の文化のよさについて関心を高める。 |
| 5 取組内容 | 1 東京パラリンピックコーナーの設置（全校児童対象） 1階図工室前に「東京パラリンピック2020コーナー」を設置した。パラリンピックの意義や東京パラリンピックで行なわれる競技を紹介した。 多くの児童が廊下を通行する際に立ち止まって、写真を見たり、ガイドブックを読んだりしていた。  2 外国語活動研究授業（全校児童対象） 本校では今年度より校内研究で外国語活動に取り組んでいる。子供たちは担任やALTとの英語の授業に意欲的で、以前よりALTや担任、友達と積極的にコミュニケーションをとるようになってきた。  |

3 盲導犬との触れ合い（3年児童対象）

日本盲導犬協会の方と盲導犬ユーザーをお招きし、盲導犬と触れ合った。盲導犬が目の不自由な方を安全に誘導したり、指示にしっかり従ったりする姿に感心していた。盲導犬の仕事や盲導犬との接し方のルールなどについて学んだ。



4 キャップハンディ体験（3年児童対象）

登米市社会福祉事務所の方をお招きし、キャップハンディ体験をした。車椅子で坂道を移動したり、目にアイマスクを付けて白杖1本で歩いたりする体験をとおり、体に障がいがある方の日常の生活の大変さを理解することができた。



5 車椅子バスケットについて（3年、5年児童対象）

（1）監督及び選手による講演

車椅子バスケットチーム「宮城MAX」の監督から車椅子バスケットボールの特別ルールや専用の車椅子、選手の紹介等があった。



（2）選手によるデモンストレーション

選手二人によるデモンストレーション。はじめは車椅子の乗り方や動かし方の説明があった。次にボールの運び方やシュートの仕方について実際に動いて見せてもらった。



（3）選手とのミニゲーム（児童6チーム）

各学級から6人編成のチームを1つずつ出し、宮城MAXの選手2名と試合をした。児童は車椅子の動かし方や車椅子に座ったままでシュートを放つことの難しさを感じていた。最後には教職員チームも試合をし、児童は大きな声援を送っていた。



（4）質問コーナー

監督が司会を務め、児童が質問をして選手に答えてもらった。



（5）感想を書き、自分の思いをまとめる。

- ・足に障がいがあるのに車いすに乗ってバスケットボールをしているのがおどろきました。
- ・選手にバスケットボールをやってもらったときはスピードがとても速くびっくりしました。選手の動きを見ていると体が悪くない気がしました。

| | |
|---------------------|---|
| | <p>・ぼくは今回の体験でバスケットボールに興味をもちました。そしてパラリンピックにも興味をもちました。ぼくはもっと他のスポーツも調べてみたいと思いました。</p> <p>・パラリンピックとオリンピックのちがいが分かったのでうれしかったです。まだテレビでも見たことがなかったのでテレビで見てみたいと思います。パラリンピックについて調べてみたいです。おうちの人にも教えてあげたいです。</p> <p>6 点字づくり体験（3年児童対象） 登米市社会福祉事務所の方をお招きし、点字づくり体験をした。点字の歴史やつくり方を学び、実際にいろいろなことばを点字でつくっていた。点字が目が不自由な人へのコミュニケーションの大切なツールとして理解できた。</p>  |
| 6 主な成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックについて関心をもつことができた。 ・キャップハンディ体験や盲導犬との触れ合い、点字づくり体験などとおして、障がいをもって生活することの大変さを理解したり、どのような手のさしのべ方がいいのかについて考えたりすることができた。 ・外国の方や障がいのある方と進んでコミュニケーションを取れるようになってきた。 ・車椅子バスケットボールのルールについて関心をもっていた。 ・障がいがあってもルールを工夫すればゲームをすることができること気が付いた。 ・車椅子バスケットボールの試合には障がいの軽重によるルールがあり、誰でも参加できるようにしていることが理解できた。 |
| 7実践において工夫した点（事業の特色） | <ul style="list-style-type: none"> ・キャップハンディ体験では、講師の先生方に多く来ていただいたり、道具を多く借りてきたりしたことで、短時間で3年生全員が体験することができた。 ・宮城MAXとの触れ合いでは、教員チームをつくって車椅子バスケットボールの選手と対戦した。 ・各種の取組の内容をホームページで発信した。 ・一連の活動をパンフレットにまとめ、登米市内の小中学校へ配布。 |
| 8主な課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降も継続していくためには教育課程上、オリンピック・パラリンピックに関する学習をどこに位置付けるかを検討していく必要がある。 ・パラリンピックの各種目の障がいに対する工夫されたルールに気付かせるために、いろいろなパラリンピック種目の体験をさせることが必要である。 |
| 9来年度以降の実施予定 | <ul style="list-style-type: none"> ・「東京オリンピック・パラリンピック2020」のコーナーの継続 ・総合的な学習の時間の福祉に関する学習の中で、パラリンピックの種目の体験を行なえるよう協働教育のコーディネーターとふさわしい講師などについて話し合っていく。 |